[謡本] 頼政　1冊　WA7-　100-001

国立国会図書館

ヤキ詞

是ハ讃國一見ニ僧ニ入ルゾ
此程ハ都ニ以ひて海陽の寺社
殘里所ニ於ケル四里ニ以ズ是
よりも南都ニ集ラリや此思ひ候

名行上

あまぞ雲ニ稲荷の社伏拜ミゾ
ゾ行ニ末ハ深草やこりゆ乃冥を
ゾ哉て伏見ニ於深田見ニわたる

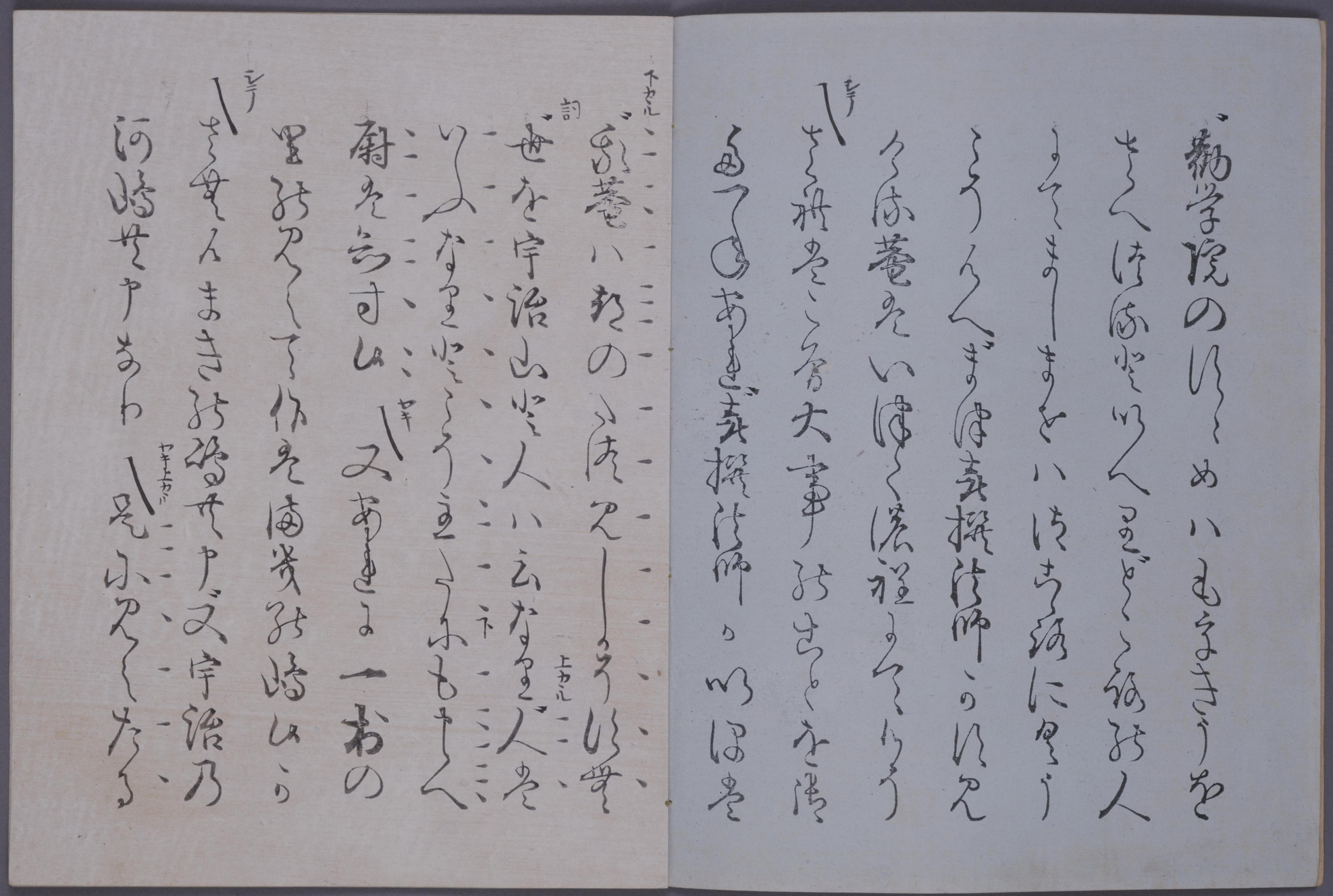
書 17.10.-6 国会図

[謡本] 頼政 1冊 WA7- 100-002
国立国会図書館

水乃上野まで宇治乃里にも
着きにけり〳〵　實や遠國にて
聞及びし宇治乃里山乃姿川乃
流遠方乃里橋乃気色見所多き
名所かな懐里人の来れかし
なふ〳〵御僧ハ何事を仰候
是ハ諸國一見乃者にて候

名所旧跡残らず教へ候へ
此所には住候へども賤しき宇治乃
里人なれバ名所せ旧跡せ
白浪乃宇治乃川に舟と橋とは
ありなから渡りに迷ふ世中舟
住なる名所旧跡とて候や
へ案内　いや左様には承り候へせ

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



[謡本] 頼政 1冊 WA7- 100-004
国立国会図書館

[謡本] 頼政 1冊 WA7- 100-005
国立国会図書館

ゞ又是なほハ鈴殿とゆて面白幾
所まてハ能く清覧なん　ヤキ　扨是
要ホ院小てハひかほうやゞ又是
なる是をこゝ稚者扇のことまに
とわ殘さゝ稚てハ是何とゆふ
所ハ稚まてうりう　シテ　さ是はこゝ
是ほ御なる物語ハ語て幾のを

中以面しむりし　物語　此所ハ宮軍乃
ゑし小源三位稚政名義ようち
下げ扇をさゝ自宮志果針ひぬ
ゞさ稚ハ必將の吉隠なる稚者とて
ゞそに扇乃是ゆ中は　ヤキ上カル　痛りしや
さしも文武ハ必を用しひと
なる稚とも隠ハ是霞乃是野を是

[謡本] 頼政 1冊 WA7- 100-006
国立国会図書館

[謡本] 頼政 1冊 WA7- 100-007
国立国会図書館

上

おもひよらへは波枕ぐ行も

跡りし此庭は扇乃芝を片敷て

夢は数を下にたふよく血え

たく渡日は河と成て紅波楯を

流志白刃骨をくだくよを宇治

河乃網代乃浪あら閻浮恋しや

上

伊勢武者ハ皆ひおとし鎧

上

きて宇治乃網代に懸りけるかな

上

うたかたは哀れなる世中に

蝸牛は角乃あらそひもはかな

かりける心かなあかある光乃陰すや

形見に法経読終く しきや形

法師乃身として甲冑を常志て経

よめ坐るそめすす横中法源

三位乃昇進小なくましましけり
実やかくれなきハ蘭麝に植ても
隠なし名ハ末ぬ先に頼政と法語
けるこそ恥かしけれ唯法理
讀好く法心安思召を五十
展將のくわきゝ小成佛すべき小
相ましましてやゝ我ハ直名に

帚あき源法の力位よ迸たり
所乃名も平等院の庭のおも
思ひ出たり佛生世小佛法
口きゝし法の場くさぐさ平小
大きなる有り難さよ頼政の仏果を
えせそう雑義是ハなき成り
法しむへ暮ごく我ハ源三位頼政

げに心乃渡よ浮沈世国果ぶる様
張可なるに扨治承乃夏の比由
かよなき謀叛を進め申も高倉乃
宮落うち雲井乃餘所舟ゆ明の
月の都を出ひ出て憂かりしも身の
近江路や三井寺さして落給ふ
去程よ平家ハ時をめくらされ

数万騎乃兵者もよを関より東よ
はやりし人ぞきくや吉野乃やま
はるゝ山科より里ちう木幡乃
関戦ようふ乃そゞろそ浮世より
揺心宇治の河橋渡り大和路
させて急しよ　寺と宇治との
間よて関路乃駒のひまもなく

[謡本] 頼政 1冊 WA7- 100-010
国立国会図書館

げにや六度まで御落馬ありて
然るをたまひしかば是は先つ夜
御寝ならざる故なりとて
平等院にして御座をかまへ
さて宇治橋の中の間引はなし
下は河波上に立も
同じ白旗をなびかしてよする敵を
待居たり 〽角て源平の兵宇治
河乃南北乃岸に打のぞみ閧乃聲
矢さけび乃音を波にたぐへて
おびたゞし橋乃ゆきげたを
隔て戦ふ味方には筒井の浄妙
一来法師敵味方乃目を驚かす
角て平家乃大勢橋は引いたれ

水はたぎつて難所の大河
なれば左右なう渡すべき様も
なかりし処に田原の又太郎
忠綱と名乗つて宇治川の先陣我
なりと名乗りもあへず三百余騎
くつばみを揃へ河水に少しも
ためらはず群れゐる群鳥の翼を
並ぶる羽音もかくやと白波に
ざつざつと打入て浮きぬ沈みぬ
渡しけり忠綱兵を下知して
曰く水の逆巻く所をば岩ありと
知るべし弱き馬をば下手に
立てて強きに水を防がせよ
流れん武者には弓筈を取らせ

[謡本] 頼政 1冊 WA7- 100-013
国立国会図書館

国立国会図書館

[謡本] 頼政 1冊 WA7- 100-014

国立国会図書館

[謡本] 頼政 1冊 WA7- 100-015

国立国会図書館